

## TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2020 Summer Lecture 2020 for Nanoscience/Nanotechnology



末益 崇 教授  
にお話を伺いました

末益 崇 教授  
筑波大学数理物質系

8月上旬から中盤にかけて、Summer Lectureを開講しました。昨年度と同様に海外において第一線で活躍されている先生方をお招きして、筑波大学と大阪大学を結んでリアルタイム遠隔講義システムを活用する計画でした。コロナのため海外から講師をお招きすることができず開催が危ぶまれましたが、7月初旬に講師の先生方の了解を得て、昨年度までの講義を録画したものをオンデマンドで配信する方法で開催することになりました。毎回の録画講義視聴後に短い問いに解答して理解度を確認し(8/1~8/15)、最終試験(8/25,27)をZOOM中継として、個々の学生がプレゼンテーションを行い、それを講師が評価する内容となりました。

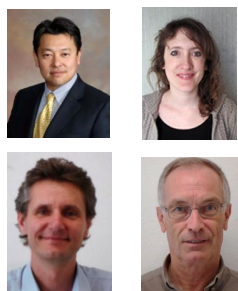
Summer Lecture はこれまで筑波大学で実施してきたナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム(オナーズプログラム)の主要な活動の一つとして実施されてきましたが、2016年度より講義の内容をナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に拡大し、筑波大学数理物質科学研究科(群)と大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センターとの共同開催で実施しています。今年度の講義のテーマは、「透過型電子顕微鏡の基礎と材料科学への応用」、「量子化学の基礎と応用」、「半導体物理と工学、ドーピング、欠陥、光学特性」と多岐にわたる内容でした。

講義と質疑は英語で行われ、海外講師による厳正な成績評価のうえ、正規履修の合格者は筑波大学大学院における単位(各科目1単位)として認定されます。また正規履修生に加えて聴講目的のみの学部・大学院生、教員等にも講義を開放しました。3講義合計で延べ24名の受講生に、著名教授による大学院講義を体験してもらいました。オンデマンドによる配信のため、学生の都合の良い日時に、録画された講義をじっくり視聴できたのではと思われます。また、Emailを介して講師と学生間で意見交換も盛んに行われました。

当初、最終試験での学生のプレゼンがスムーズに行われるか心配していましたが、学生がしっかりと準備して臨んだため、想像以上に良いプレゼンテーションでした。また、学生からの質問も多かったように思います。シャイな学生も、お互いの顔が見えない分、質問しやすかったのかも知れません。今年は講師が誰も来日できませんでしたが、講師の先生方および大阪大学と協力して、何とか無事にやり遂げられてホッとしています。

最後に、本活動を支援して頂いた教員を始め、技術職員の皆様、TIA推進室の皆様にご心からお礼申し上げます。

### 海外大の講義をZOOMで体験



Zoom

期間	2020年8月1日(土)~8月27日(木) ※8/1~8/15:オンデマンド配信、8/25,8/27:最終テスト(ZOOM)
会場	アーカイブ授業のオンデマンド配信、ZOOMによるオンライン方式
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究科(群)、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育センター
構成	3講義、各8コマ(+1コマ最終試験の講義あり)
参加者数	24名(大学院生24名) ※3講義合計

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先:

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp  
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1